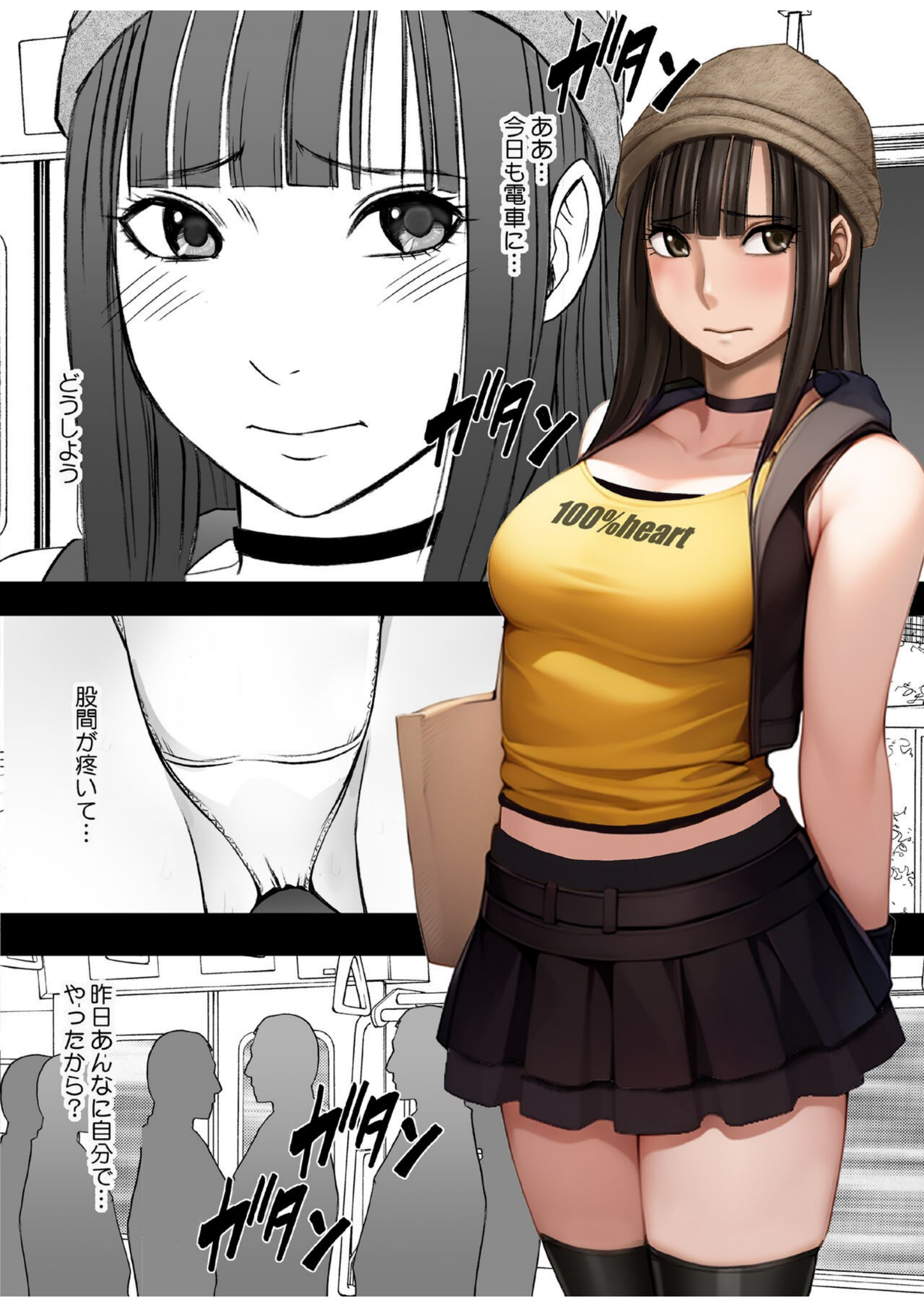




ヴァージン
トレイン R2



ああ...
今日も電車に...

カタン

カタン

股間が疼いて...

昨日あんなに自分で...
やったから?

カタン
カタン



知らない男の人にもらった
ローターを

アッ!とあて続けて...

一晩で...

6回...

運つのに
絶対に!

一度男の人に快感を
覚えさせられた
私のカラダは...

ち...僕の
Hな女のふんふんが...

な...固...
な...固...
な...固...

き...気持ち
気持ち...

き...気持ち
気持ち...

タ...
タ...

も...
も...

早くローターを
止めないと...

その日...
その日...

あの夜...
あの夜...

6回...
6回...



昨日のことを
思い出して
また少し

淫らな気持ちに
なりかけていた
そのとき



昨日の夜は
楽しんでくれたかな?

オレが渡しておいた
ローターで

聞き覚えのある

男の声ー

私の後ろに
立っていた

昨日私に
絶頂を教えた男が

第4話

支配者 再び



やだ...
何で今日も...!

まだ腫らしてる...!

ズズ...

カタンカタン

キキ
キキ

このままじゃ
まだ昨日みたいだ...!

電車の中で...



昨日渡したローター...
そんなにたくさん
使ったの?

え...?!



おや?

ちょっとココが
腫れてるね?

ズズ...

ズリ♡
ズリ♡



昨日の夜
あのローターで
何回イッたの？

1回？ 2回？

ローター使ったこと
バレてる…！

ズンズン

うそ…！

ガッタン

そんな…！

ガッタン

ガッタン

びんびん

フフフ…
その様子だと

6回はイッた
みたいだね



何で…？

何で分かるの…！？

やりだしたら
気持ち良すぎて
止まらなくなってきた

キリのいいところで
5回まで…って思ったけど
つい もう1回
イッて…6回…

そこからで罪悪感が
出てきて
やめちゃった感じかな？

うそ…
何でそこまで…！？



心を見透かされる
たびに

しかも



心が
見透かされてる……!

凶星かな？
カラダが正直で
かわいいよ



びんびん

ダメ……!

こんなの……!

びんびん

どんどん感度が
上がって……!



全部…

アム



この人に…



支配される…!!

アム



この人に…

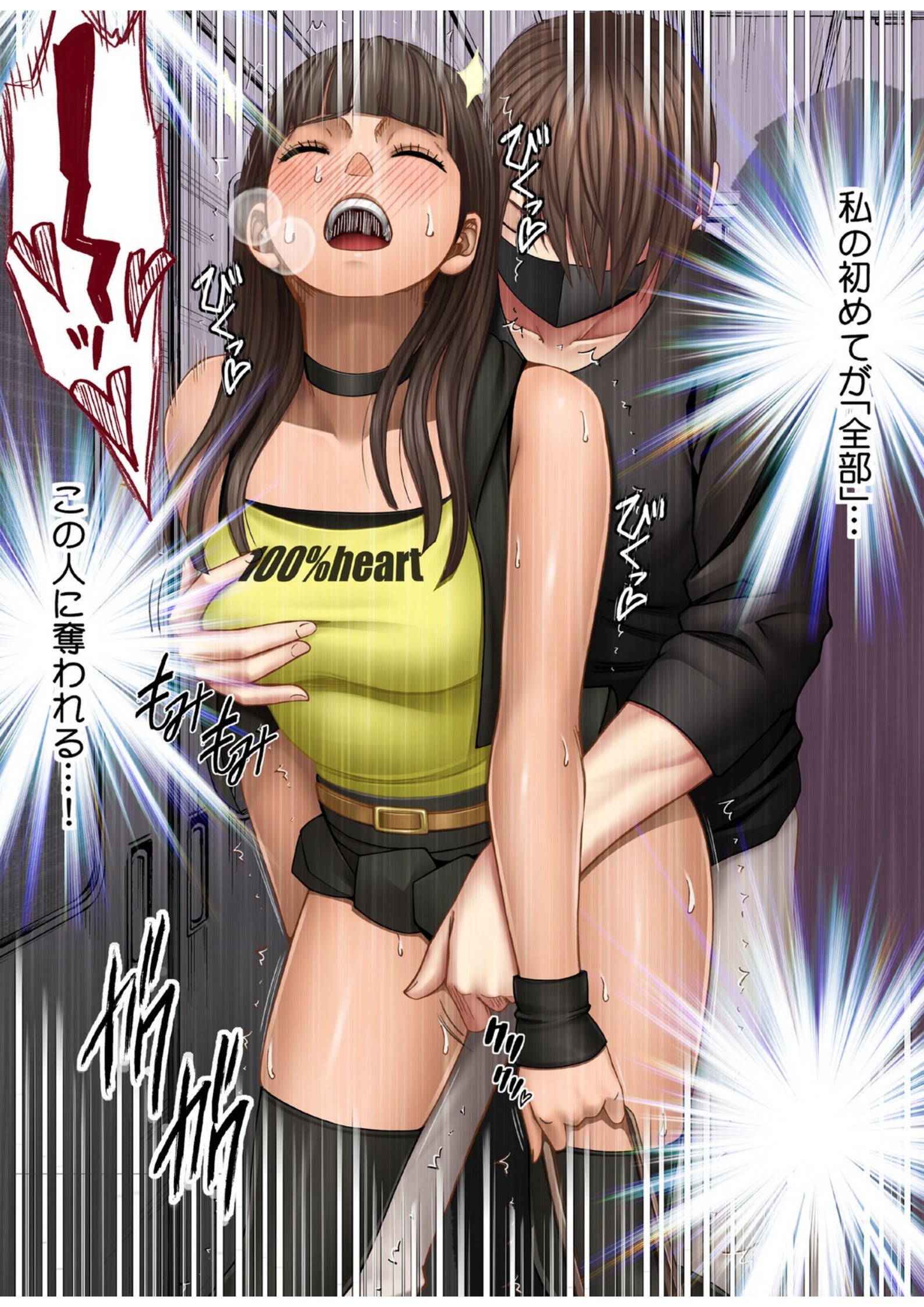
アム

もう私の感じるアムロも全部バシてる…!!

アム

アム

アム



私の初めてが「全部」...

この人に奪われる...!!

まじまじ

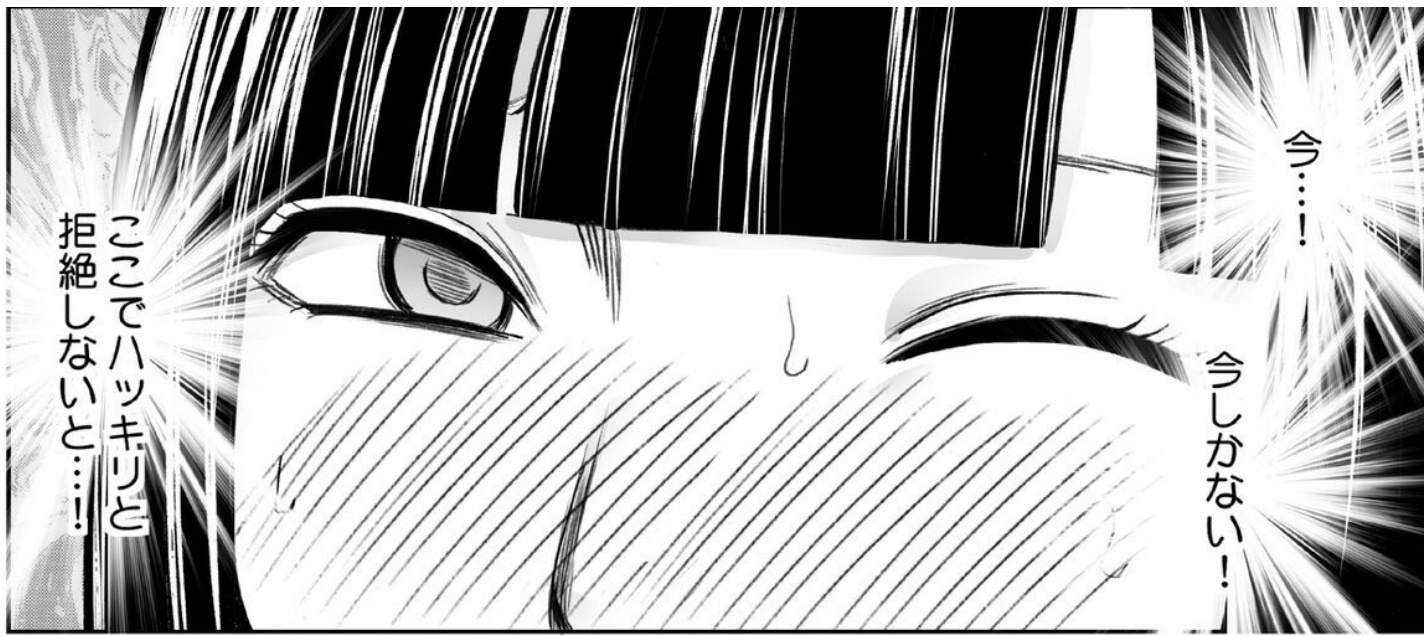
めいめい

びんびん

びんびん

びんびん

めいめい



今…!

今しかない!

ここでハッキリと
拒絶しないと…!!



手を払いのけて…!

足を踏んづけて…!

この人のほうを向いて
きっぱりと拒絶する…!!

やるしかない!
私は—

痴漢に
いいように弄ばれて

喜ぶような
女なんかじゃ
ないから…!!

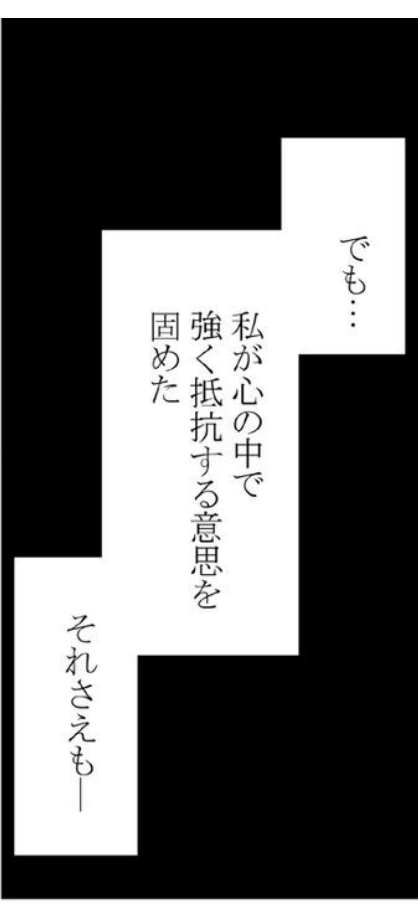


その行動も



「手を払いのけて」
「足を踏んづけて」

「この人のほうを向いて
きっぱりと拒絶する」



でも…
私が心の中で
強く抵抗する意思を
固めた

それさえも—



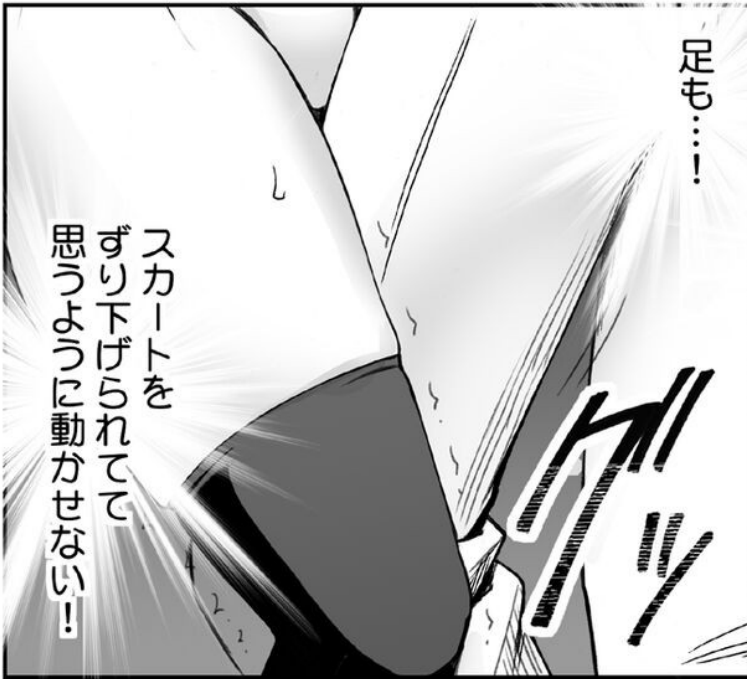
見透かされていた

完全に



何か言いたそう
だけど？

どうしたの？



足も…！

スカートを
ずり下げられてて
思うように動かせない！

グッ



手が…

バッグのひもが絡まって
拘束されたみたいになって…！



それに…

この人のほうを向いて
きっぱり拒絶する
つもりだったのに…！

やっぱじり恥ずかしすぎて……!!

顔も見れない……!!

フフフ…
何だかキミが
抵抗しようかどうか
迷ってたみたいだから

手を縛って
自分の意思では
抵抗できないように
してあげたよ

これでもう
キミは

無理矢理されても
仕方ない

100%heart



キミの本能が
望んでいるのは…

扉を開けてもらうこと

固く閉ざされた扉を—



羞恥心がジャマして
抵抗しようと
してみたんだけど



それはキミの
本心じゃないよね？



キミは本当は
抵抗することなんて
望んでいない



羞恥心のはじけとぶ
くらいにー

もっしょ...
もっしょ...



また...
イツちゃう...!



また...
昨日みたいに...!



や...やだ!





快感が終わらない！

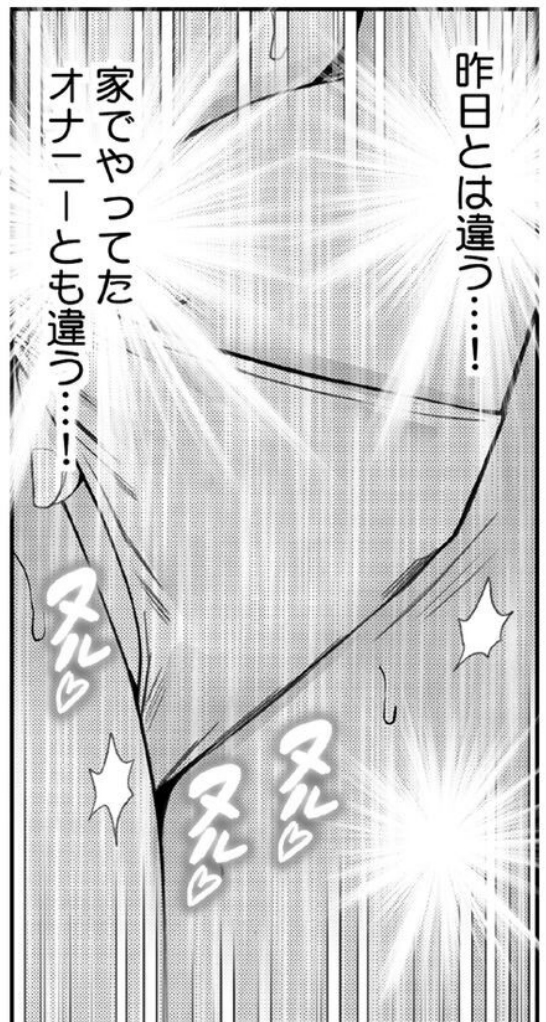
えっ…？

何…？…！…？



快感がー

もっと深く…！



昨日とは違う…！

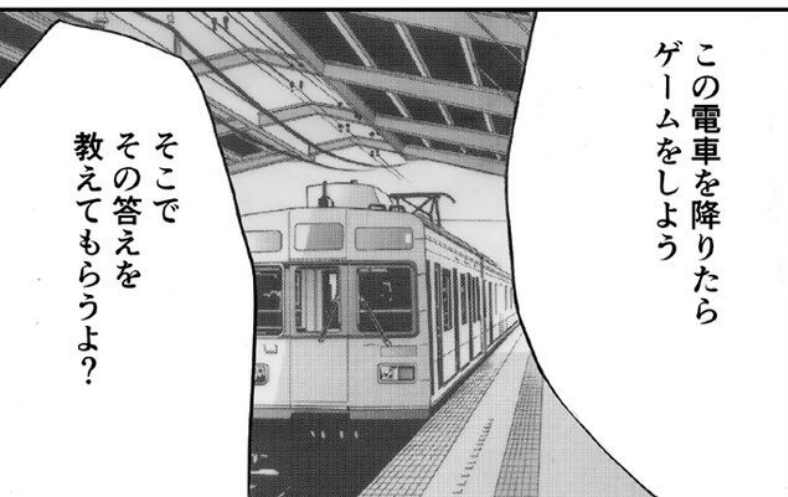
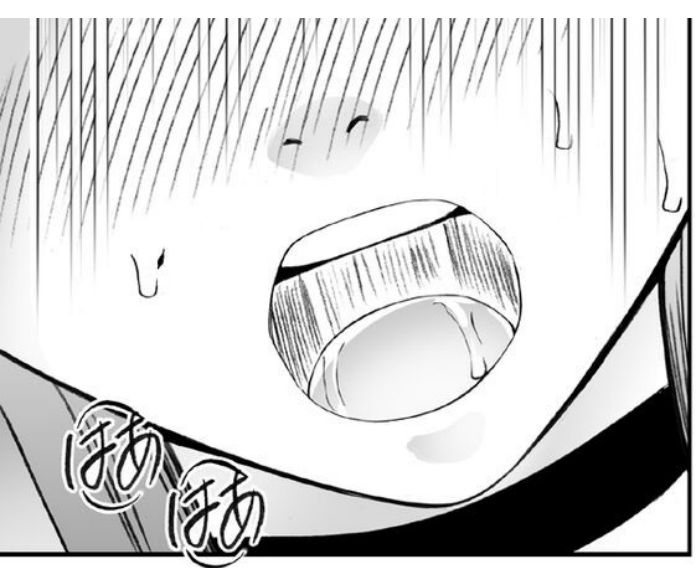
家でやってた
オナニーとも違う…！

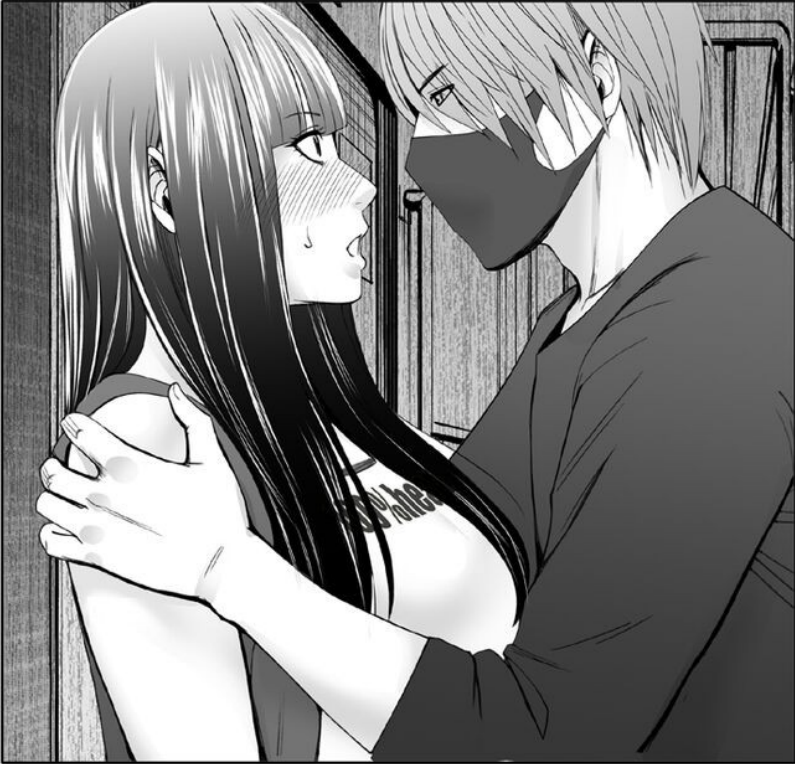
ヌル♡

ヌル♡

ヌル♡









そして
私たちは
電車を降りて…



快感の余韻が
残ったままの体で
強く抵抗することが
できなかった私は

手を引かれるが
ままに

ホテルに
連れ込まれて…

ギキギキ

グッ



言っただろう
ゲームをするって

そんなに警戒
しないで
いいんだよ？

大丈夫
いきなり
犯したりはしない

グッ



絶対に…絶対に…絶対に…

このままじゃ
絶対に…

最後まで
されちゃう…！



今後一切
痴漢はしないし

なんなら
オレを警察に
突き出してもいい



ルールは
簡単だ

制限時間は
今から1時間後
このスマートフォン
アラームが鳴るまで
キミがずっと
拒絶し続けたら
キミの勝ちだ



でも
もしキミが
一度でも自分の意思で

「最後までして欲しい」
ということをし
認める行動を取ったら

そのときは
キミの負けだ



まあ
「負け」と言っても

そのときは
キミのして欲しいことを
するわけだから

どちらに転がっても
君にとっては

悪い話じゃ
ないだろう？
フフフ…

第5話

勝っても負けても

そしてゲームは
始まった

フフフ…
電車の中じゃ
じっくり見れなかったけど

本当に
Hなカラダ
してるね

ダメだ…
いつの間にか
脱がされて…!!

濡る
濡る

こんな格好じゃ
スキを見て
逃げ出すことも…!!

逃げようなんて
考えなくてもいい

何も考えずに
本能に身を
委ねればいい

やっ…!!





オレの目から
見る限りでは

キミのカラダは
今日オレに会った
瞬間から

もっと
激しい快感を—

昨日やったことよりも
もっと先のことまで—

ズ
ズ

そう望んで
いるように
見えたけどな



ああ……!

また来た……
この感触……!

ズ
ズ
ズ



一瞬で快感を

無理矢理呼び起されて…!

もうダメ…!



せっかく電車でイカされてから

ほんのちよつとだけ鎮まってるのに…!



フフフ…

パンツの上からでも分かるくらい濡れてきたね…

ぬちゃ



じゃあそろそろ

一度目の質問をしておこうか

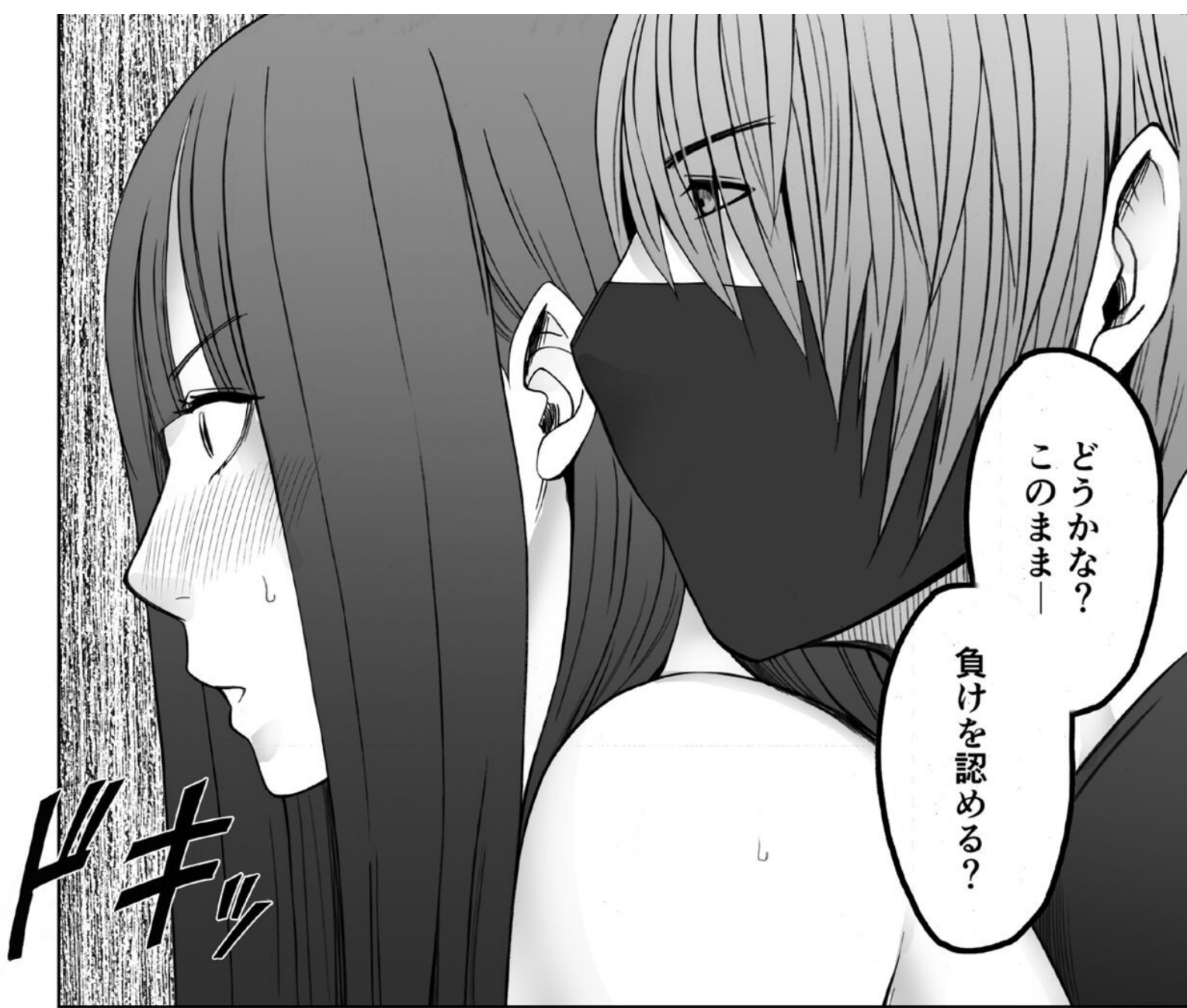


またカラダが

燃えるように熱く…!

アハハ

アハハ



どうかな？
このまま—

負けを認める？



キミの..欲しい..ことを
するわけだから—



まあ
「負け」と言っても
そのときは



キミの負けだ

最後までして欲しい
ということをと
認める行動を取ったら





結論なんて…!!

そんなの…!!

決まってる…!!

絶対にイヤ…!!



結論は
それしかないの!

あと55分間
ガマンし続けて…

最後まででは絶対に
させない!



たとえ
この先何分
触られようが

拒絶の意思が
変わるはずはない

私の
初めての相手が



そう
思っていたけど...

その決意は



こんな
見ず知らずの
痴漢男とだなんて

そんなの
絶対にありえない

わずか
10分足らずで

ほころび
始めて…



さあそろそろ
自分の口から

「イカせて」って
言葉を



ダメなだけで…!!

……!
こんな……!

……ッ!



……



ダメ!

まわりに人が
いる電車と違って
ここなら二人きり

思いっきり
声を出して

思いっきり
イッても
問題ないからね

ダメ!

……ッ!





動揺して
しまった心を

大きな声で
抗議することで
隠そうとしたのかな？

フフフ…
やっぱり

キミは本当に
Mだよな

ざっざっ…

見透かされてる…

アッ♡

アッ♡



いつも
オレに心の内を
言い当てられると

ココから
愛液が
溢れ出てくる

ああ！
またアソコから

愛液が溢れてきて！

止められない！

アッ♡

アッ♡

アッ♡





もう今の状態で
ガマンできないくら
気持ちイイのに……!

これ以上だなんて……

そんなの……私……!

絶対に
されたくない!!

最後まで
して欲しい……!



一瞬…

自分の気持ち
が真つ一つに
割れたのが分かった

すべて
この男の人の
言うとおりでた

私のカラダは

自分の理性では
制御することが
出来なくなっていた



拒絶なのか
受け入れるのか

もう本能に
身を委ねること

答えを
待つしかなかった

でも…
そんな私を

この人は

あああ…!!

イク…!!

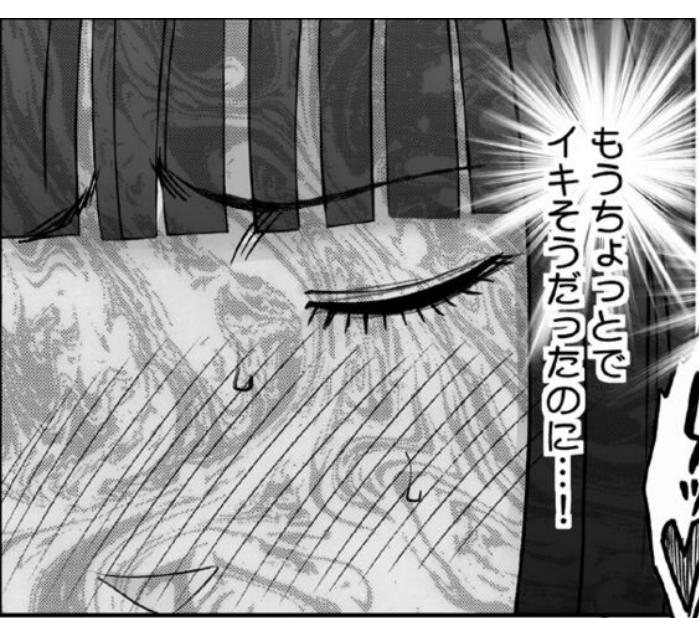
イクッ…!!





第6話

私の知らないこと



もうちよひじやで
イキそうだったのにー



え…？

や…やだ…
今…！



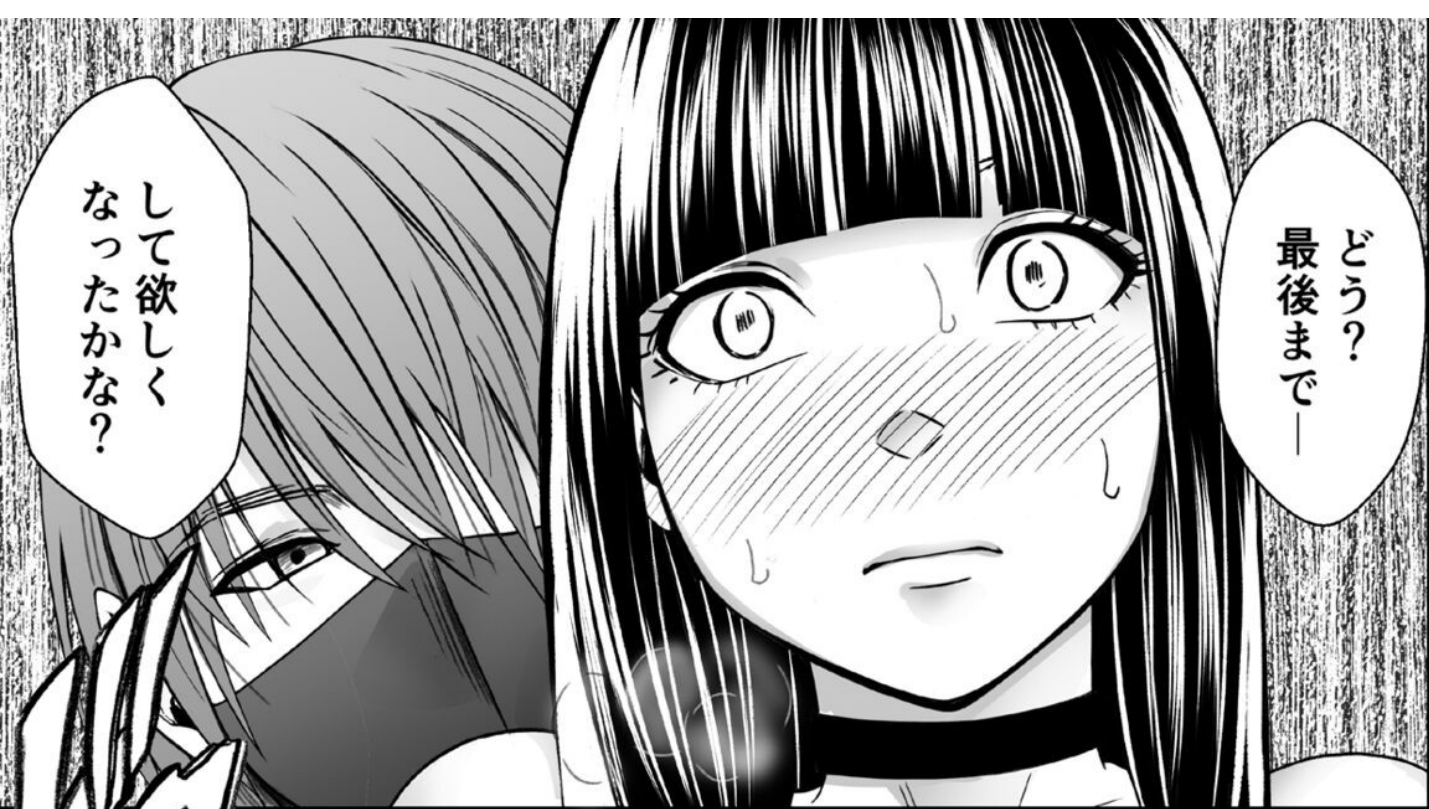
そろそろ
もう一度



イキそう
だったのにー

止められたー

返事を聞いて
みようか…？



どう?
最後まで—

して欲しく
なったかな?



.....!

え...



ほら
言葉にするのが
恥ずかしいのなら

あ...

首を縦に
振るだけでも
いいんだよ?

や...!

びる
びる

びる
びる



フフフ
まだ結論は
出てないんだね

まあいいよ
まだまだ
時間はあるし



制限時間の
アラームが鳴るまで

ゲームを
続けようか





また…
イキそうになった
直前で…!?

偶然じゃない!

わぎと寸前!

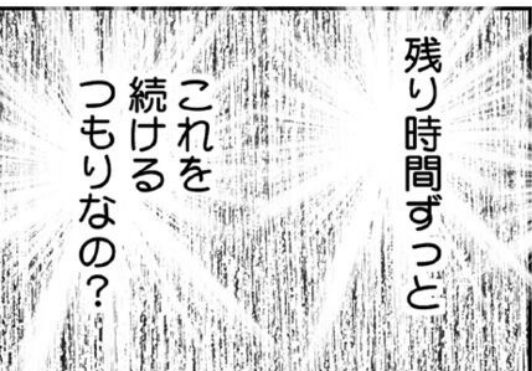
わぎと寸前



私がイキそうになっ
てるのを
分かってて

わぎと寸前で
止めてる…!?

まさか…



残り時間ずっと

これを
続ける
つもりなの?!



まさかこのまま

フフフ…



てつきりまた
昨日の電車や
家でのオナニーみたいに

何度も何度も
イカされまくるのだと
思っていた

そういう覚悟で
いたのに

何度も何度も
イカされまくるのだと
思っていた

そういう覚悟で
いたのに

私に
待っていたのは



「寸止め」

イカされることさえも
初めての
経験なのに

イクのを
寸前で止められて
焦らされると
こんなになるなんて

もちろん
知るはずもなくして…

快感で
カラダを
宙に浮かされて



その状態から
降ろして
もらえず

生殺しに
されて…

20分…

30分…





50分と

40分…

イキそうになつては
止められ

イキそうになつては
止められ…



もう心は

完全に…



イキたい…!!

イキたい…!!

イキたい…!!

イキたい…!!

イキたい…!!

最後まで
して欲しい
…!!





その時の私は
まるで

逃げることも
抵抗することも
できなくなっていて

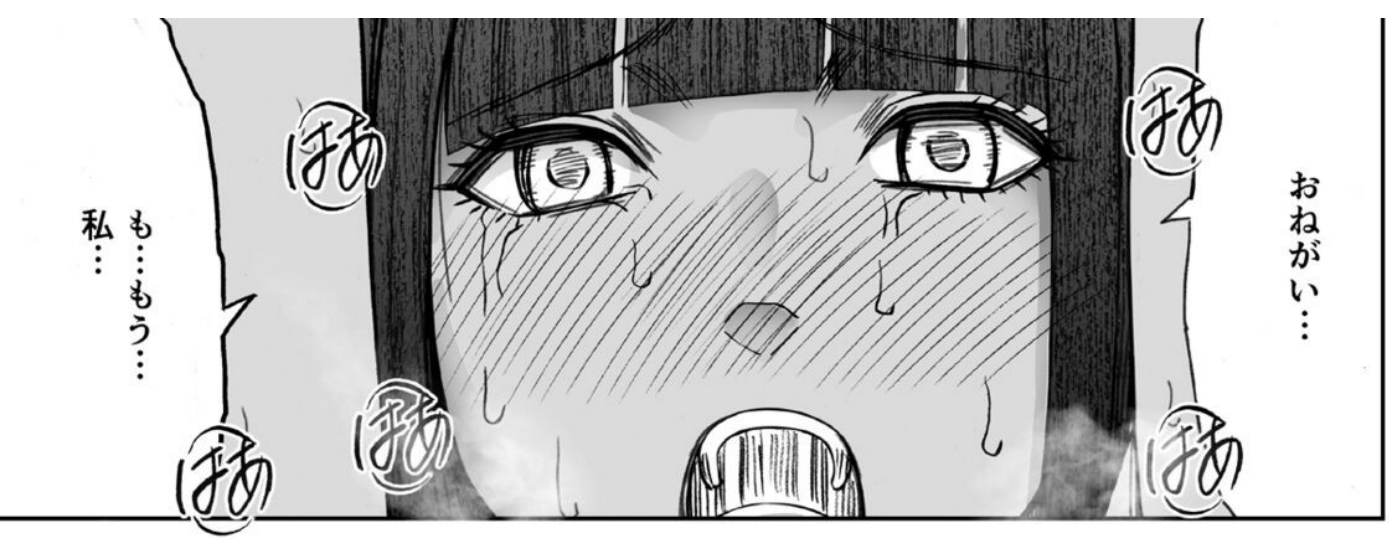


いつの間にか
手も足も完全に
拘束されて



大人しく待つだけの
獲物のようにな
っていた

ただ「とどめ」を
さされることを





キミのアソコに
当たってるモノ…

分かる？



コレを
入れたらいい

キミが望むのなら
そのまま腰を突き出して



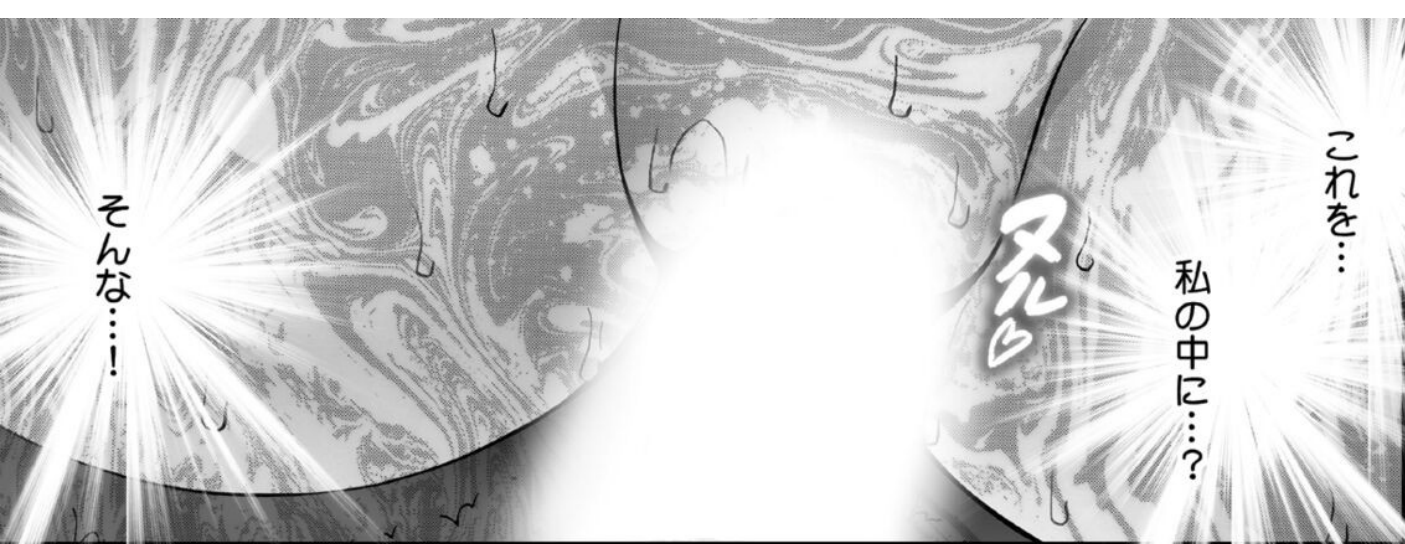
とびきりの
エクスタシーを
与えてあげるよ？

その代わり



もちろん
キミはこのゲームに
負けることになるけど

…



これを…

私の中に…？

ズン

そんな…！



ダメに決まってる！

こんなこと
ダメに決まってる！

びん

びん

びん

イキたい…！

気持ちよく
なりたい…！

びん

びん

こんなところで
処女を失つては
いけない

そんな理性と

このまま
ズルズルと
快楽に引き込まれて
どこまで落ちるか
分からない

そんな恐怖が

わずかに
ブレーキを
踏んでいたけど

それくらいじゃ
もう

快感が充満しきった
私のカラダを

止めることは
できなかった

もうダメー！

私…ガマンできない！

ズッ
ズッ

ズッ
ズッ

おっしっしっ！

おっしっしっ…このまま…！！

最後まで…！！





!!?



とらとらとは

ゲーム終了かな?



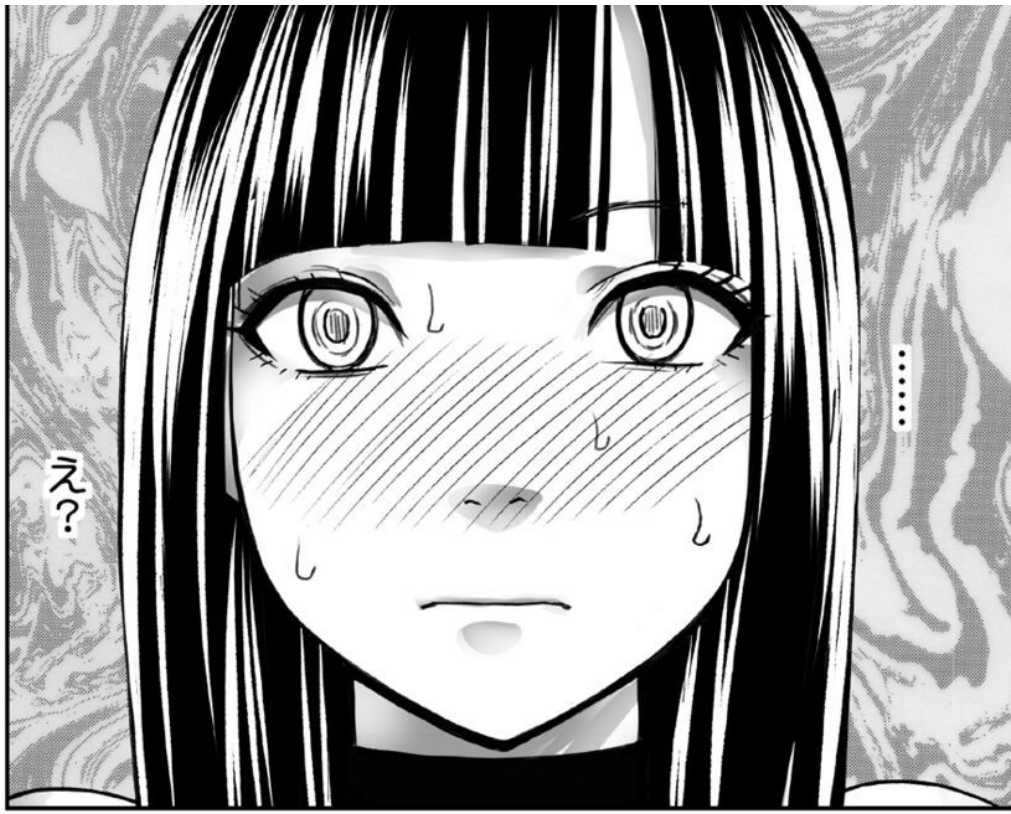
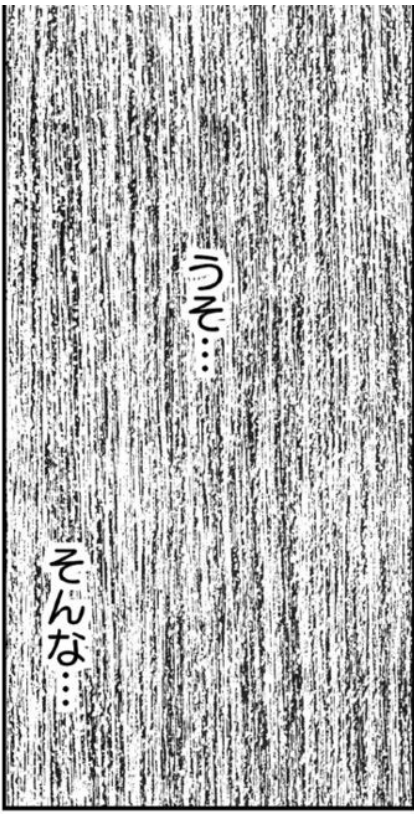
おっと...
1時間の
アラーム...

時間切れか?



...





終わじ...なの？

うん...